

# 広報オススメ本 4月



「あとには切手を、一枚貼るだけ」  
小川 洋子・堀江 敏幸／著 中央公論新社

かつては共に暮らし、現在は離れた1組の男女が、手紙を通して、共通の思い出や、想いについて語り合う。エヴァンスの手書き切手、灯台、アンネの姉の日記等様々なことがモチーフとなり読み進めるうちに漂う悲しい予感……。2人の作家が往復書簡形式で紡ぐ物語です。



「世界一高価な切手の物語」  
ジェームズ・バロン／著 東京創元社

1856年にイギリス領ギアナにて地元のみで発行された1セント切手。その切手が17年後1人の少年によって売られ、数年後には世界で一番高額の950万ドルで落札される。通称「1セントマゼンダ」をめぐる数奇な運命と、その切手に翻弄される人々の物語です。



「切手の中の北海道」  
北林 利仁／著 北海道新聞社

この本は平成6年に記念切手発行100年を迎えたことを機会に、著者が自分の切手収集コレクションの中から「北海道」をテーマに発行された切手を紹介したものです。道内の国立・国定公園、自然、建造物など切手を通して北海道を感じる1冊です。